

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）

「スマートバイオ産業・農業基盤技術」推進委員会（第1回）議事要旨

1. 日時 平成30年7月2日（月） 10:00～11:00

2. 場所 中央合同庁舎第4号館 4階 共用第2特別会議室

3. 出席者（敬称略）

（議長）小林 憲明	内閣府	スマートバイオ産業・農業基盤技術 プログラムディレクター
龍澤 直樹	内閣官房	情報通信技術（IT）総合戦略室 企画官
飯田 洋	内閣府	宇宙開発戦略推進事務局 企画官
山岡 洋	国税庁	課税部 鑑定企画官
永井 雅規	文部科学省	研究振興局ライフサイエンス課 課長
滝沢 翔平	文部科学省	研究開発局環境エネルギー課 専門官
山田 広明	農林水産省	大臣官房政策課技術政策室 室長
原田 久富美	農林水産省	農林水産技術会議事務局 研究統括官（生産技術）
水元 伸一	農林水産省	農林水産技術会議事務局 研究開発官（基礎・基盤、環境）
上村 昌博	経済産業省	商務情報政策局商務・サービスグループ生物化学産業課 課長
安部 賢	国土交通省	港湾局計画課 企画室長
水谷 好洋	環境省	地球環境局地球温暖化対策課地球温暖化対策事業室 室長
岡田 正孝	国立研究開発法人	農研機構生物系特定産業技術研究支援センター 研究開発監
事務局 黒田 亮	内閣府	政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付 大臣官房審議官
中島 潔	内閣府	政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付 企画官

4. 議題

- （1） 推進委員会の運営要領について
- （2） 研究開発計画について
- （3） 当面のスケジュールについて

5. 配布資料

- 資料1： 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「スマートバイオ産業・農業基盤技術」推進委員会の設置について
- 資料2： SIP スマートバイオ産業・農業基盤技術推進委員会 構成員名簿
- 資料3： SIP スマートバイオ産業・農業基盤技術推進委員会 運営要領（案）
- 資料4： 研究開発計画（案）「スマートバイオ産業・農業基盤技術」（概要）
- 資料5： 研究開発計画（案）「スマートバイオ産業・農業基盤技術」
- 資料6： 当面のスケジュール
- 参考資料1： 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）概要（2018年4月1日改正）
- 参考資料2： 科学技術イノベーション創造推進費に関する基本方針（2018年3月29日改正）
- 参考資料3： 戦略的イノベーション創造プログラム運用指針（2018年3月30日改正）

参考資料 4 : 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第 2 期 (平成 29 年度補正予算措置分) の実施方針 (2018 年 3 月 29 日)

参考資料 5 : S I P 第 2 期のプログラムディレクターの選考について (2018 年 4 月 13 日)

6. 議事要旨

(1) 内閣府事務局より、参考資料を用いて、推進委員会の位置づけにて説明された。

(2) 推進委員会の運営要領 (資料 3) が提案され、承認された。

(3) 研究開発計画について

研究開発計画 (案) (資料 4、資料 5) について説明された。

計画案については、6 月 14 日のガバニングボードで審議され、他の S I P 2 期の課題とともに、パブリックコメント (任意) にかけていることが了承されており、現在パブリック・コメント中。意見を踏まえて、必要な修正をし、ガバニングボードにはかることが承認された。

また、出席者より以下のコメントがあった。

(内閣官房情報通信技術 (I T) 総合戦略室)

データの活用が非常に重要であり、また、SIP 課題間でも連携をとる必要があると考えており、できるだけ協力したい。

(農林水産省)

スマートフードチェーンは、生産中心のデータ連携基盤の機能を拡張して、流通、消費、加工、あるいは、輸出まで広げて、幅広いデータプラットフォームを目指している。I T 総合戦略室とも協力して、データ連携のプラットフォームが適切に構築されるのに協力を惜しまない。

バイオエコノミーを拡大し、また、そのバイオテクノロジーの利用を進めて経済社会の発展につなげる重要なプロジェクトと認識している。政府の統合戦略や産業界からの提言を、P D の方針の下で、重点化した内容となっている。

(経済産業省)

イノベーションを起こし得られた成果を民間が社会実装を進め、グローバルなバイオエコノミーや持続可能な経済・社会を作ることにも貢献するために、経済産業省としてしっかりこの分野の支援を行う。また、NEDO も生研機構と連携して研究の推進が行えるよう支援を行う。

(文部科学省)

このプロジェクトは、生物の能力を活用するというのが共通項。基礎生命科学やライフサイエンス分野の先端的な研究開発をしている文部科学省所管の法人や、アカデミアにも参加を促してまいりたい。

(4) 当面のスケジュールについて

事務局より、当面のスケジュール (資料 6) の説明がされた。

プログラムディレクターより、早く研究をスタートするために、管理法人に、公募から契約に至る一連の事務の効率化、迅速な処理に努めてほしいと要望された。

以上